特集

新春町長インタビュー 2021年を振り返る

―新年明けましておめでとうございます。住民の皆様に一言お願いします。

住民の皆様、新年明けましておめでとうございます。輝かしい新年をご家族、ご友人とともにお迎えになられたことと心よりお祝い申し上げます。2022年も幸せで豊かな人生を歩まれることを心より祈念を申し上げます。

―昨年はワクチン接種を始め、コロナ対策に取り組んできました。コロナ対策の概要とこれからの方針などを教えてください。

事業継続への支援や社会的に非常に厳しい立場にある人たちに対する支援、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた社会づくりに関する取り組みなどを進めてきました。中でも、ひとり親への支援給付金、地域内循環と生活支援のための住民一人当たり5000円分の商品券配布、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え積極的に取り組みをされている事業者への支援などを実施してきました。また、ワクチン接種事業は、対象の約90%の方が2回目の接種を終えられています。2月からは、2回目の接種から8ヵ月を経過した方から順次接種を行っていく予定です。

―民間事業者が中心となり開催されている阿蘇シーサイドピクニックについてどう考えておられますか。

毎回多くの方々が来場され、飲食店さんや参加者同士のコミュニケーションを楽しまれています。コロナ禍という非常にピンチの状況があったからこそ、前に進んだものであると思っています。継続的にこのような取り組みを支えていくことが重要であると考えています。

―移住者が多くなっているとのことですが、状況はいかがでしょうか。

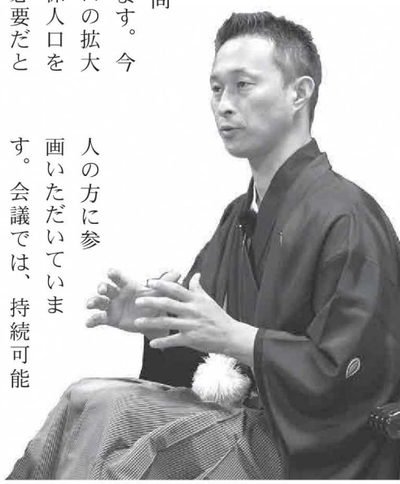
令和3年の移住者の方は、11世帯31人で過去最多となっています。皆さんは、町の施策を通じて与謝野町に移住されてきた方です。移住政策や定住政策を充実させることが地域内の人口の維持や、さまざまな問題の解消につながってきます。今後は、観光による交流人口の拡大に併せて、移住政策や関係人口を増やしていく取り組みが必要だと考えています。

―昨年12月につばきこども園が開園しました。施設に期待することを教えてください。

子どもたちの健全な育成と豊かな感性を輝かせるために、町内に3つの認定こども園を建設する方針を掲げてきました。つばきこども園は、旧かやこども園と旧桑飼保育園の園児が一緒に過ごします。できる限り子どもたちの主体的かつ自主的な取り組みを育めるような運営ができればと考えています。

―まちの公共施設と公共サービスのあり方について議論している「よさの地域デザイン会議」の進捗を教えてください。

よさの地域デザイン会議は、住民基本台帳から無作為抽出をして、岩滝・加悦・野田川地域から約60人の方に参画いただいています。会議では、持続可能な公共サービスはどうあるべきか、また、公共施設がどう配置されるべきかなどの対話をしていただいています。この対話をとおして、保育・子育てをはじめ子どもの居場所、スポーツできる場所、生涯学習などのサービス提供地域の考え方が整理できればと考えています。このように、住民の皆様とともに、対話を行うことは有益で示唆に富んだ機会になっています。



―最後に住民の皆様にメッセージをお願いします。

引き続き新型コロナウイルス感染症対策を講じていただきながら、社会経済活動の推進にご協力をお願いいたします。また、ウィズコロナ・アフターコロナに向けた地域社会づくりが求められています。これまで以上に住民の皆様には、まちづくりへの参画をお願いいたします。

※ 本記事は、与謝野町有線テレビ番組「町長・議長新年あいさつ」をもとに編集しています

中高生の活躍を紹介します！

町内の中高生がスポーツに芸術にと素晴らしい活躍を見せてくれました。その活躍を生徒の声とともに紹介します。

令和３年度全国高等学校総合体育大会 ウエイトリフティング競技大会 女子 +76kg 級　準優勝

宇野（うの）　心音（ここね）さん（海洋高校３年・江陽中）

母親の影響を受け高校から競技を始めた宇野さん。「初見から強くなるだろうと感じる選手だった」と川崎（かわさき）顧問。１年生のときに全国大会への出場権を獲得するも、新型コロナの影響で大会が中止になり、全国への思いが強くなる日々が続いた。迎えた３年の全国総体では、腰を痛め万全な状態ではなかったが、準優勝という結果に「優勝した選手とは差があり実力不足を感じた。３位の選手とはライバルで勝てたことが嬉しかった」と話してくれました。

第３０回国際高校生選抜書展（書の甲子園）入選

武縄（たけなわ）　咲希（さき）さん（宮津天橋高校加悦谷学舎２年・加悦中）

日本国内の約 11,000 点の応募数から見事入選（2,000 点）を果たした武縄さん。制作への思いを「墨を入れる、かすれさせるなど迫力ある作品を心がけました」と教えてくれました。糸川（いとかわ）顧問は「空間の取り方が上手く、毛の長い筆を上手に使って書ける」と言います。今後の抱負を「最高の賞を取れるよう悔いが残らないように頑張りたい」と話してくれました。なお、武縄さんの作品は、２月８日～13日に大阪市立美術館で展示されます。

第３８回京都府高等学校総合文化祭 書道部門　最優秀賞

松瀬（まつせ）　夏帆（かほ）さん（宮津天橋高校加悦谷学舎２年・橋立中）

２年連続で最優秀賞受賞という快挙を成し遂げた松瀬さん。制作への思いを「他にはない工夫を意識し、大会の中でも目立つ作品を心がけました」と教えてくれました。糸川顧問は「作品にかける情熱が誰よりも強く、筆の使い方が上手」と言います。今後の抱負を「期待を裏切らないような作品を書いていきたい」と話してくれました。なお、松瀬さんは、同文化祭の優秀校発表会にて、各部門の最優秀賞校（者）の中から特別賞となる「村田製作所賞」も受賞しました。

第７０回近畿中学校総合体育大会 駅伝競争の部　５位入賞

江陽中学校男子駅伝チーム

河邊（かわべ）　海聖（かいせい）さん（３年）
小池（こいけ）　千樹（せんじゅ）さん（３年）
小長谷（おばせ）　俊介（しゅんすけ）さん（３年）
木村（きむら）　優斗（ゆうと）さん（３年）
成毛（なりも）　裕飛（ゆうひ）さん（３年）
福井（ふくい）　楽（がく）さん（２年）
浪江（なみえ）　亮成（りょうせい）さん（２年）
河原林（かわらばやし）　遼（はる）さん（２年）
廣瀬（ひろせ）　捷太（しょうた）さん（１年）

上段左から成毛さん、浪江さん、河原林さん、小池さん、河邊さん
下段左から廣瀬さん、木村さん、福井さん、小長谷さん（令和３年 12 月１日撮影）

京都府大会で４位となり、18年ぶりの近畿大会出場を果たした江陽中学校男子駅伝チーム。強さの秘訣を「すごく仲が良く、楽しそうに走っている」と時田（ときた）顧問は言います。大会前には長島教育長を訪問し「地元で応援してくれている方々に恩返しできるような走りで、最後までタスキをつなぎます」と力強く抱負を語ってくれました。兵庫県豊岡市で開催された近畿大会は、冷たい雨の降る天気の中、これまで苦しい練習をともにしてきた仲間を信じ懸命にタスキをつなぎ、目標としていた８位を上回る５位でゴール。選手たちは「地域の方に支えられ、いい雰囲気の中、みんなで全力で取り組んだ結果。近畿大会で得た貴重な経験を今後の学校生活に役立てていきたい」と話してくれました。